

こんにちは

日本共産党 週刊県議会ニュース

2022年3月20日 No. 1134

きらとみひに
吉良富彦です

事務所
新屋敷事務所 823-5878
勤野事務所 846-2046
県議会控室 823-9524

ビキニ核被災でシンポ 県主催で初 元マグロ漁船員の早期救済を

●本県マグロ漁船員が1954年3月ビキニ環礁で米国の水爆核実験により被ばくしたと認めた高松高裁判決(2019年12月12日)を重く受け止め、県として元漁船員の調査や相談をと、県議会で求めた私どもの要請を受け、県は去る12日、コロナ

禍で延び延びになっていたシンポジウムを主催しました。

●父親が第7大丸で被ばくした下元節子さんは遺族を代表し「核兵器禁止条約に署名し二度と父のような被爆者をださないで」と話しました。広島

大学名誉教授鎌田七男先生は、「黒い雨」と「ビキニ被災」は共に内部被曝であり、両者共に政治的な側面によって①人体に影響ないと言われ、②隠蔽され、③放置され、④他の被爆者と同等な扱いを受けず差別されてきたと述べられ、また、廣橋伸之広島大学教授は、政治的背景が影響しデータが外されこんなに長い間闇に葬られ評価・補償がなされてこなかったと発言されました。

●ビキニ被災船員救済へ政治の責任は重く、シンポジウムを開催した高知県への期待は大きい。



カラリン
にゃんでも通信

2月県議会中根議員の一問一答質問。(しんぶん赤旗3月11日より)

妊産婦医療費助成制度を

高知・中根氏協議進展みられず

日本共産党の中根佐知・高知県議は9日、一般質問に立ち妊産婦医療費助成制度の創設などを取り上げました。

昨年の9月議会で中根氏が妊産婦医療費助成制度の創設を求めたのに対して、山地和子子ども・福祉政策部長は全市町村が足並みをそろえて導入できる効果的な施策を検討しないと答弁しています。中根氏はその後の進捗(しんちよく)状況を質問。山地部長は財政負担が大きくなる自治体が慎重で、現時点では協議に進展がみられず厳しい状況だと回答しました。

中根氏は「足並みがそろわないと実施できないことに納得できない」とのべ、乳幼児医療費助成制度の導入などが足並みがそろった自治体から始まったことに言及。産婦人科の数が限られ安心して出産できる環境が十分整っていない郡部の女性に妊娠時のみ現れる高血圧症や糖尿病での生活の制限や入院など、多大な身体的、経済的負担がかかっていることを指摘。「人口の多い自治体が今の時点でやろうとしないからといって、妊産婦が必要とする援助制度をつくるのが遅れるのは残念だ」とのべ、「この2年の検討を制度として結実させるべきだ」と求めました。

山地部長は「全市町村が足並みをそろえて実施する制度にする必要だ」とのべ、答弁に終始しました。